

令和7年 飯田市教育委員会11月定例会会議録

令和7年11月11日（火） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子
教育委員	麦島 真理子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
副参事兼中央図書館長	瀧本 明子
教育政策課長	上沼 昭彦
学校教育課長	伊藤 寿
教育センター所長	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	小林 和弘
文化会館副館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
教育支援指導主事	三尾 利彦
教育政策課総務係長	北澤 五月

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、11月飯田市教育委員会定例会に入らせていただきます。
よろしくをお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） それでは最初に日程の第2「会期の決定」でございます。本定例会の
会期につきまして、本日11月11日の1日間といたしたいと思います。ご異議ございませ
んか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第3、「会議録署名委員の指名」ですが、本日は会議録
署名委員として野澤稔弘教育委員をお願いしたいと思います。

○教育委員（野澤稔弘） はい、かしこまりました。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） それでは次の日程のほうに入ってまいります。「会議録の承認」であり
ます。10月定例会の会議録につきまして、承認をいただければと思います。

あらかじめ原案のほうは各委員のほうにお送りをしてございますので、内容についてご
異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、10月定例会の会議録は承認をいただきました。

次の日程に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第5になります。「教育長報告事項」でございます。

それでは資料を御覧ください。次第があったその次、4ページ目ですね。

10月26日に長野県書道展飯田地区の授賞式がございました。義務教育での小学校・中学

校の部では、半紙と条幅、まあ条幅といっても本当の条幅よりは少し細長い小さい条幅ですが、各賞が設けられて、大人の皆さんの作品とともに並んで展示されていました。御覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

いずれにしても、小学校・中学校の部の作品は、非常に基本点画がきちんとできていました。楷書・行書、両方あるんですが、いずれもやはり入選する作品は、紙いっぱいの太い線で描かれているものが多いなあというふうに思います。やはり、紙いっぱいに大きく書けるということがとても大事な事かなというふうに思いました。

一方、高校生の作品は、中国古典を臨書したものが多くて、いずれもこれは時間もかかる。要するに文字数が多くて、集中力が長く続かないとできないなっていうそんな作品でございました。高校生になると、やはり篆書・隸書というのが増えて、その技能の高まりが見えたなというふうに感じたわけであります。

続きまして、11月2日にエス・バードで飯田市が取り組んでおります環境ポスター表彰式というものに行っていました。

これは例年、小学校四年生がいろいろな様々な環境産業公園とか、あるいはごみ処理場、そういうところを見学したり、飯田市の副教材等を勉強したりする、その延長線で作品ポスターを作るということで、今年は約7割の参加、564作品が応募いただいたということであります。

この2枚の作品は、左のほうが市長賞、右のほうが教育委員会賞で優秀作品ということでございました。いずれにしても、そのほかの作品もそうですが、図工、図画工作の作品としてもとても立派なものも多いし、メッセージ、あるいは絵がどういう絵を入れるかということも大変優れているなということを感じています。これは、いろんなところでこれから環境保全の取組の意識を高めることに活用されるということでもあります。

それから3つ目は、上久堅小学校が創立150周年を迎えまして、その式典と記念祭のほうに行っていました。

記念祭のほうは各学年の発表ということでありました。記念式典では、50年前のタイムカプセルを掘り起こして当日披露しようと計画したんですが、なかなか大きなもので人が入れるくらいのタイムカプセルで、事前に取り出すことにしたそうです。新聞にも掲載されましたが、たくさんの作品が出てまいりました。それが飾ってありました。習字とか作文っていうのは、時代を超えて変わらないなということ感じたりしました。

また、式典後の各学年の発表では、六年生が進行役をするんですが、一・二年生による踊りだとか各学年の発表が非常に盛り上げていたかな。その中で特にみらい創造科の取組

として、五年生が田んぼアートということの取組、米づくりをどこの五年生もやるんですが、上久堅小五年生は単に作るんじゃないくて、そこに 150 っていうですね、文字を浮き上がらせるように、うるち米と赤もみかな、その組み合わせをして、なかなか苦勞してやったそうです。こどもたちがだんだん主体的になって、「やれ」って言われてやるんじゃないくて、夏休みに自分たちで草取りが必要だと判断してやったというようなところが、まさにムトスの学びを実践していただいた取組だなと思いました。

当日、せんべいを作って、このような写真ですが、ここに右手後ろにずっと列をなして皆さんが、ただでいただけるという、ただ多少堅めなので歯に気をつけないといけなかったんですがね。そんな素晴らしい取組がございました。

それから、飯伊 P T A の研究集会が 8 日土曜日にエス・バードでございまして、今までと大分内容が変わって取り組みやすいというか、参加も動員がかかるというよりは動員かわらず「参加できる方で」という形で、人数は少なくはなっていたかと思いますが、主体的な取組がなされたかなというふうに思いました。

メインテーマは「部活動の地域展開の現状と今後」ということで、飯田事務所の原指導主事によるプレゼンの後に、パネラーのパネルリスト等が発表するという。そのほかにも「学校と家庭、教育としつけの境界線」とか、「P T A、ホントに必要!？」というような差し迫ったテーマも出されて、グループごとにそのパネラーの意見を聞きながら協議するっていうような、そんな形に変わってきております。

それから、11 月 9 日に黒田人形伝承館で行われた伊那人形芝居公演に出席しました。

この伊那谷には飯田市にある黒田人形座と今田人形座、それから阿南町にある早稲田人形座、さらに箕輪町にある古田人形座、この 4 座があって、それぞれが発表するという。今年で、最初は箕輪西小学校の古田人形クラブ 15 人の児童に発表していただきました。普通は三味線と太夫の語りでやるんですが、ここは子どもたちが現代語に訳したセリフをしゃべるっていう、そういう新鮮な、私は小学生でもこうやればできるんだっていうものを拝見しました。

また、古田人形芝居保存会の「三番叟」は、これまた飯田の 2 座とは違って後ろにこうずらっと笛・太鼓の皆さんが並んでいて、しかも羽織袴を着てやるというようなやり方あって、これもまた飯田市の 2 座の「三番叟」とは違う新鮮味を感じて、やはりところ変われば同じ流れで来たものも時代の変化とともに変化しているんだなってことを改めて感じた次第でございました。

私からの報告、以上でございます。

何かご質問等ありましたら。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第6 議案審議（1件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは続いて「議案審議」のほうに入ります。

議案第85号 令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、議案第85号、「令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 議案第85号、令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定についての説明をいたします。

認定対象者につきましては、別紙のとおりでございます。記載いたしました認定要件にて飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定くださいますようご提案を申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いをいたします。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） それでは議案第85号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第85号は、原案のとおり決定をされました。

議案審議のほうは以上でございます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて「協議事項」に入ります。

協議事項1 公の施設の指定管理者の指定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、公の施設の指定管理者の指定についてを議題といたします。

議題の説明をお願いいたします。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） それでは、公の施設指定管理の指定（飯田市上村山村文化資源保存伝習施設）について、ご説明をさせていただきます。

8 ページを御覧ください。

対象となる施設には、飯田市上村山村文化資源保存伝習施設です。これは上村まつり伝承館「天伯」と隣接する上村山村ふるさと保存館「ねぎや」の一括管理となります。

指定する団体は、株式会社「大空企画」であります。

同社は平成 30 年 12 月から指定管理者となっておりまして、過去 2 年間の利用状況・収支状況は 9 ページから 10 ページに記載の通りでございます。

13 ページを御覧いただきまして、選定の理由ですが、上村地域の歴史文化をはじめ実情に精通しており、まちづくり委員会や公民館との連携により、上村山村文化資源保存伝習施設を活用した地域の民俗文化の伝承活動に期待できるということでございます。

適格性に関する評価の点数を記載のとおりところでございます。

なお、指定管理料は、年間 351 万 2 千円余。指定管理期間は、令和 8 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日までの 3 年間としております。

なお、指定管理の継続にあたりまして、飯田市域自治区の設置等に関する条例第 10 条によりまして、当該施設が設置されております上村地区の地域協議会に諮問いたしましたところ、異議なく承認ということでございました。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いをいたします。

ご異議、ご意見はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それではご質問、ご意見等ないということで、これまた社会文教委員会のほうに提案をさせていただくという流れになっておりますので、ご了承いただければと思います。

以上といたします。

日程第 8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして「陳情審議」ですが、本日はございません。

日程第 9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第 9 「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）番の「教育委員報告事項」に入ります。

教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いしたいと思います。

じゃあ、野澤委員お願いいたします。

○教育委員（野澤稔弘） 伊那谷芸術文化祭、9 日の日に行きましたが、入れませんでした。家内の同級生がコーラスに出るということで見に行くということで、気楽に時間に間に合うように向いました。しかしながら、駐車場が空いてなくて何回かぐるぐる回っているうちに時間に間に合わなくなり、家内だけ降ろして、私は諦めてました。今回、文化会館の移転計画の理由の一つなのかなと感じました。気楽に行きたかったのですが、気合入れないと見れないんだなっていうイベント毎の肌感覚が必要なんだと感じました。出演者の方々も車で乗り入れていて、多分入れ替わりのタイミングで空きがでたのでしょうか、なかなかそうもいなくて、うまくなかったかなと思いました。

文化会館の駐車場はかなりいろんなところにまで広げてありますが、それでも、「こっちにある。こっちにある。こっちにある」って言いながら回っていましたが、全部満車で本当に全然止められなかったです。ふと思ったのは臨時でいいからバスみたいなものを仕立てられないのかなと思いました。例えば、伊賀良地区だったら伊賀良のバス停とか、上郷のほうだったらエス・バードを使ってそこから文化会館へシャトルバスを臨時で仕立てられれば、もっと気楽に見れるのかなと思いました。本当に気合入れないとこんなに入れない感じ、悲しかったというのが今回の報告です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） じゃあ、北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 私も今の伊那谷芸術文化祭ともう 1 点あります。11 月 2 日の開演の日に行かせていただきました。

ちょうどお昼の合唱の部のところから管弦楽・吹奏楽の部、それから人形劇場のほうの

バンド・ポップスの部と開場時間が 30 分ずれているので、両方を行き来させていただきました。人形劇場のほうに行ったら偶然、教育長も参加されているのを遠くからお見掛けしました。

人形劇場のほうはまさにバンド・ポップス。最初の 2 つの団体は短大生と大人の皆さんだったのですが、超爆音、スモーク焚いて電気ピカピカの爆音を聴いて、何を歌っているのか歌詞は正直いって全く分からない。ただ、大きい音とリズムがガンガン迫ってくる。乗るには乗るのですが、久々にこういう世界もあるなと聞かせていただきました。時間を見て文化会館のほうに行って、今度は吹奏楽とか合唱の発表で、両方を聴かせていただきました。

特に、吹奏楽のほうは飯田高校の生徒たちが、子ども受けするような選曲で若々しく、はつらつとしてやってくれるところから、吹奏楽団で長くやってきている皆さんのものまでいろいろ幅広く聴くことができ、とても楽しい午後を過ごさせてもらいました。

それからもう 1 点は、美博のほうの特別展、もっと早くに行こうと思っていながら今頃になってしまいましたが、「山とともに生きる」という「遠山郷のあゆみとくらし」の展示を見させていただきました。自分も 20 代のころに 3 年間、上村の住人だった時代があってそんな経緯もありますので、本当に懐かしく、それから自分の義理の父や母も遠山郷に縁があって、和田小学校や八重河内小学校に勤めていた経緯があるので、非常に興味深く見させてもらいました。

特に、中世からの仏教信仰の展示のところは、こんなに古くからの関わりがあるのだというのがとっても丁寧に展示されていました。それから秋葉道の飯田側から小川路峠を越えていく秋葉様詣で、旅館や茶屋がいっぱいあったといった展示があって、興味深かったです。いい展示を見させていただいてありがたかったです。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　じゃあ、林教育委員。

○教育委員（林　綾子）　教育委員全員出席している会ですが、先日の 11 月 7 日、飯伊市町村教育委員会連絡協議会のほうに出席しました。講演会は今回、福岡女学院大学の斎藤先生、それと東京教育専門学校の吉田先生という方、お二人の講演でした。ワークショップなんかも取り入れながら、私と麦島さんが、前に出てちょっとやらせてもらったりして大変楽しい時間を過ごしました。

この時に学ばせてもらった S E L っていうのを私は初めて実は知りまして「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング」、感情を勉強していくっていうかそういうトレーニング

をしていくものです。その中で事例で出していただいた「ギフテッド」って言われる方の話ですとか、ASDの女性の事例、今ちょっと新聞とかでも載ってますが、一生懸命自分を隠してカモフラージュして過ごしていたり、ちょっとした雑談ができないとかの例もお聞きしました。大学の授業の中で30歳過ぎている女性がワークショップであるにもかかわらず、雑談というものが本当にできなくて悲しい思いをしたりとか、先ほど言ったギフテッドのお子さんというのは、幼児期から死にたい気持ちを抱えているんだというような重い事例も聞かせていただきました。本当に胸が締め付けられるような思いというか、どんなに辛いのかなっていうのをちょっと改めて感じさせてもらって、そういった方々が三者の関係を結ぶのはすごく難しいのだっていうところが、「ああ、なるほどな」ということで、とても考えさせられたし、こういったトレーニングというのがどれぐらいのお子さんたちがそういうふうに見つけてもらって、トレーニングを受けられているのかなということとか、いろいろと考えさせられる内容でした。

また、その中で一つ、ビジョントレーニング、目のトレーニングのところを説明してもらったときに、昨今の読書の問題として、「本を読まない子が増えている」と聞きますが、それがゲームなどの時間が増えているからというような問題じゃなくて、この例に出てきたお子さんのように困難を抱えていて読書が出来ないこともあると知りました。例えば縦書きのもので次の行に進むのが困難なお子さんがいたり、「本を読む」って当たり前に感じているようなことでも、そうやって困難を抱えている。どれぐらいのパーセンテージのお子さんがそういう子がいらっしゃるかわからないですが、勉強の面にしても読書とか、あるいは音楽とか体育とかいろんな面で困難を抱えている。ちょっと自分たちが想像しないような困難を抱えているっていうお子さんがいるんだなっていうこと本当に改めて知ることができました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

はい、じゃあ麦島委員お願いします。

○教育委員（麦島真理子） 私は11月7日の飯伊市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会と伊那谷文化芸術祭、2点の報告をさせていただきます。

まず、研修会で最も印象に残ったことは、先ほど林委員もお話されたように、福岡女学院大学大学院教授の斎藤富由起先生による講演会の中で、「発達障害傾向の人の最大のポイントは三者関係」という内容が、私にとって非常に勉強になりました。二者関係はうまくいくのに三者になった途端に辛くなってしまう。例えば2人の会話の中に自分から入って

いくこと。他にも、林さんと私と副講師の吉田先生とペンをこうやって指で押し合い3人で力を合わせて落とさないようにする実演を前に出てやりました。三者になると難しいというお話から「いかにして三者関係をうまく築けるようになるかが大事」ということを学びました。そしてSEL、ソーシャル・エモーショナル・ラーニングという、社会的及び情動的なスキルを育む方法を初めて知りました。

ちょうど前に出ていったときに、近くに斎藤先生がいらっしゃったので、「家族関係も全く同じですね」というような話をしたら「そのとおり」という会話ができまして、私は普段の仕事において子育てと家族関係を専門としているので、ストンと腑に落ちる内容となりました。

二者関係は、自分と相手の2人だけで成り立ち、最も小さな単位だと赤ちゃんと母親みたいな閉じられた安心の世界で、心の安全基地はとても親密で結びつきが強いが、行き過ぎると束縛や共依存になりやすい側面がある一方で、三者関係は、そこに第三者が加わることによって初めて社会の扉が開く、社会への橋渡しになるような関係性です。例えば母子関係に父親が加わる時に、自分と母の関係だけじゃなくて、自分と父の関係とか、父と母の関係というものに初めて気づく、そういう第三者が介入することで、子どもは自分と母は一体じゃないことを学び、それが社会に向かって踏み出すための一歩になること。また、夫婦関係でも、子どもが生まれた瞬間から、夫婦の関係から父と母と子どもというパートナーの閉じられた関係に子どもという第三者が入り、一気に家族の形も社会的なものに変わります。まずは二者関係で安心を学んで、さらに三者関係を学ぶことによって社会性や他者性を獲得していくことになるのです。

三者関係が機能しづらいと学校や職場など人間関係の境界が曖昧になりやすいため、そのために幼少期から三者関係をしっかりと体験することや、安心と自立の両方兼ね備えた人間関係を築くことができるようにしていくことが、とても重要だと思い、この学びを深めたり自分の仕事にも活かしていきたいと思いました。

その後の阿智村のスクールコミュニティ構想の発表や分散会にも参加し、非常に勉強になり楽しく参加させていただき、ありがとうございました。

2点目なのですが、11月9日に伊那谷文化芸術祭を鑑賞してきました。

あいにくの雨天でして、先ほど野澤委員がおっしゃられたとおり、私も駐車場に困ってしまいまして、今宮神社の駐車場に最終的に止めるという手段になりました。娘が小学校の合唱団で出演しておりまして、発表後すぐに橋南文化祭へ移動ということで、かなり慌ただしい中で、駐車場がないしかも雨が降っているという状況だったのでなかなか大変で

したが、無事鑑賞させていただくことができました。娘たちは「飯伊童謡・唱歌をうたう会」と一緒に毎年ステージに立たせていただいております、地域の合唱好きの方たちとともにステージに立つ機会や、今の子どもたちが童謡や唱歌を歌う機会は少ないので、今年で小学校卒業になりますが、大人になっても記憶に残るような非常に貴重な経験をさせていただいた場となったと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

特に伊那谷文化芸術祭は、合唱団体数が多くて、その日が多分一番混むときだったから、ほかのときだと割合、入れ違いのときに来てもらうと空いていると思います。また、館長もしっかり聞いております。また音楽祭実行委員のほうにも、そんな声もあることについては理解をいただいているかと思います。

ではよろしいでしょうか。それぞれについてご質問等はございませんかね。

（「ありません」の声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（２）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして「教育次長報告」に入ります。

教育次長から報告がございましたらお願いいたします。

○教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（３）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （３）番の「教育政策課関係報告事項」に入ります。

教育政策課から報告をお願いします。

上沼教育政策課長。

○教育政策課長（上沼昭彦） それでは９月 29 日に開催いたしました第２回の飯田市学校あり方審議会の様子につきまして、どのような議論を行ったか等について報告させていただきます。

資料の３ページを御覧ください。

これは第２回審議会の目的を記載してございます。今後、第２次答申等の策定に向けましては、地域課題に対する対策案としての案、あり方検討に入る経緯の設定、また検討体制などを含めて、行政のスタンス、また関わり具合に関する方向性を具体化していく必要

がございますが、それが第2次答申等につながるという認識の下、第2回の審議会におきましては、遠山郷学園内の小学校の再編の取組、これを先行実例といたしまして、今後、地域・保護者・学校教育委員会が協働して学校のあり方の検討を進めるための重要な論点を抽出したいと、そんな目的を持って実施しております。

4ページになりますが、審議会の進め方を記載してございます。

遠山郷学園内の小学校再編、この取組の事例を機に、後ほど触れますが、4つの視点で個人ワークシートそれぞれ委員の方に作成をいただき、質問ごとにグループワークにて意見交換・共有し、それを発表するとともに専門委員の方からコメントをいただき、最後、個人ワークでまとめるといったような流れで審議会を開催いたしました。

5ページになりますが、これは個人ワークシートの様式でございます。

このシートでは、ここに記載されているこの4つの視点もって遠山郷学園の事例報告を聞きまして、気づいたこと、感じたことをそれぞれ記入いただきました。今後、自身の地域で保護者・学校・教育委員会が協働で学校のあり方検討を進める際に、参考となる点、大切にすべき点、重要な点について、また一方で、取組の障害・難しさとなっている点、気になる点等について、それぞれ地域や保護者の取組として、また、市教委や市の考え方、取組の支援について、この4つの視点でご記入をいただいております。

ちょっと1ページ飛びますが、7ページを御覧ください。

こちら、グループワークを行った際のシートでございます。個人ワークを基にグループ内で意見交換するため、ワークシートに記入いただいた4つの視点について、それぞれ付箋に書いていただいて、このシートに貼っていただきながら発表するということを行っております。そして、意見を共有・集約する中で、今後審議すべきテーマを整理いただき、グループ発表をいただいております。なお、各グループのまとめについては、後ほど説明をさせていただきます。

8ページから17ページは、遠山郷学園の事例報告の際に使用した資料として参考として付けさせていただいております。内容といたしましては、遠山郷学園会議の設置・検討の経緯、飯田市、また飯田市教育委員会に学校再編への要望書を提出したことなど記載した遠山郷学園だより、また遠山郷学園のランドデザインでございます。

資料18ページから24ページは、第2回審議会の会議録となります。文量が多いですので、お時間あるときに目を通していただければと思いますが、ポイントとなる各グループ、また、個人のグループワークのまとめについて、次のページから説明をさせていただきます。

25 ページから 27 ページは、各グループのグループワークのまとめ・ポイントを掲載しております。

例えば、25 ページ、A グループですが、「人口の減少、急激な少子化の危機意識を持つことの必要性や、そのために市や市教委として保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事」との意見。また、「遠山郷学園では、まちづくり委員会と学校営協議会が『子どもの教育環境の危機』という共通の意識の下で一つになったが、他の地域においてはここはうまくいっていないのでは」といった意見もあり、今後考えていく上での重要な視点等の意見をいただいています。

また、26 ページ、B グループからは、参考となる点として、「地域や子どもを真ん中に、これを大切にしている」点、また、「保護者の声やこれから子育てしていこうとする若い皆さんの声を聞いている。このことの大切さ」、また、「市教も一緒になって議論していることの重要性に関すること」、また、取組の障害となる点としては、「学校がなくなってしまうという地域の思いを考えると意見もなかなか言いづらい」とか、「責任は誰が取るのか」といった話もあり、「実際に取組を進めていく上での現実的な障害の一つにこれからなってくるんじゃないか」といった意見、また「将来が見えてこないことへの不安」、「どういった時に危機感を持たなければいけないのか分からない」といった意見や、その裏返しとして、「市や市教委は、取組の支援として一定のあるべき姿や方針を示すってことが大切」といった点。

また、27 ページ、C ループからは、「市教委の常に課題とミッションを共有しながら地域の伴走に徹している」点、また、「寄り添う姿勢は大切だ」という意見ですとか、「今後のあり方の審議会の議論において、あり方を検討する学園の優先順位、これを議論すべきである」とか、また、「遠山郷学園は一小学校・一中学校の施設分離型を選択していますが、他の学園では、今後の課題であることを考慮すると、ある程度選択肢を審議会で議論して提案していくことも必要じゃないか」といった意見が確認されております。

28 ページからは、個人ワークの自由記述として、グループワークを通じて大事だと感じたこと、今後の議論していく必要があると感じたことについて記載いただいたものを整理した資料となります。

主な意見として、10 のテーマで整理をさせていただいています。①「こどもまんなか」を基本に据えて考えていくことの大切さ。②「学校づくりは地域づくり」の精神であるということ。③飯田市や教育委員会の寄り添う姿勢が大切であること。④基本的な方針について議論することの必要性。⑤として、具体的な検討に入るためにどの学園から議論する

のか等優先順位を明らかにしていくこと。29 ページになりますが、⑥学園地域に学校を残していくための方策の検討も必要ではないかということ。また、⑦喫緊の課題として複式学級にならない状況を目指したり、施設の老朽化に対する議論が必要ではないかということ。⑨学園構想の推進を進めるための施設の形態の議論が必要なこと。また、⑩地域での検討のあり方として、保護者等の意見をきちんと聞くことの大切さ。また、「まちづくり委員会が主体となって少ない意見も大切にしたい意見交換により、わだかまりを残さない議論、こういったものが大切じゃないか」といった意見が確認されております。

30 ページは、グループワークの結果を踏まえまして、専門委員会からのコメントを掲載してございます。

坂野委員からは、「こどもをまんなか」に置いて議論していくこと、また市として対話型でともにやっていくこの姿勢については、「委員会の中では共有ができているが、議論に関わっていない方々に今どの程度認識をされているのか、またどのように伝えていくかが重要である」ということ、また「遠山郷学園への取組から先にいつまでに決めるかという期限を定めていたことが重要で、これについては先に市教委が示していくというよりは、地域の方々の中で期限を定めたということがよいプロセスではなかったか」ということ。また、「議論、負担感、これをどう捉えていくかということが大切で、これは相互理解を深めるための手続きであるといったような捉え方、今後共有していくといいな」といったご意見をいただいております。

井出委員からは、「学校のあり方の議論における重要な視点として、これは自治体が今後各地域をどのように発展させていこうとしているのかであり、その中で大きな役割は教育であるのですが、それを学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点で捉えていく必要があります、市長局との対話が必要ではないか」等の意見をいただいております。

このように、第2回審議会においては、委員の皆様から様々な視点・ご意見をいただいております。地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方の検討を進めるための重要な論点を抽出するという、第2回目の審議会の目的は達成できたのかなと捉えております。現在、事務局において、このまとめを基に今後の二次答申・二次方針の作成に向けた論点の整理を進めているところでございます。

なお、第3回の審議会を12月22日に開催する予定でございます。第3回の審議会の様子についても、終了後また適宜報告させていただければと思っています。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの教育政策課の報告につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお出しいただければと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 特にまとめのところに注目いただけると分かりやすいかなというふうに思います。

今後も配置、枠組み等につきましては検討していきますので、また何かありましたら、ご遠慮なくご質問いただければと思います。

（４）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは、続きまして（４）番、「学校教育課関係報告事項」。

○学校教育課長（伊藤 寿） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） では、学校教育課関係はございませんね。

（５）教育センター関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて「教育センター関係報告事項」。

北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） そうしましたら令和６年度の長期欠席・不登校調査結果について三尾統括より報告申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） では三尾統括お願いします。

○教育支援指導主事統括（三尾利彦） 31 ページを御覧ください。

先ほどの関係ですが、図１を見ていただきますと、先ほど申しましたように県のところを見ていただきますと、国と県と同様、令和５年から６年にかけて増加してはいますが、その増加率は減速していると見えます。

細かく見ると、表の１になりますけれど、その「不登校」のところ、小学校で１０名減少、中学校で１５名の増加ということです。

その背景ですが、表３を見ていただきますと、今年度、小学校で不登校が解消した児童が４０名と、過去３年で一番多くなっております。また、新規に不登校になった児童が６６名と過去３年間で一番少ないということで解消した小学校の児童が多く、新たに不登校になった児童が一番少ないということが今回のそこにつながっていると考えられています。

以下につきましては、お読みいただきたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ここにつきましても、ご質問、ご意見がございましたらお出しただければと思いますが、いかがでしょうか。

小学校は昨年減ったという状況でございます。

よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは、また協議会のほうでも何かあればそちらのほうでお出しただければと思います。

（６）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続いて（６）番、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それでは 32 ページを御覧ください。

わが家の結いタイム三行詩コンクールにつきましては、教育委員の皆様におかれましては審査にご協力いただきまして大変ありがとうございました。

審査結果につきましては、資料の 33 ページ以降に入賞作品等を記載させていただいておりますので、御覧いただければと思います。

2 月 7 日のみらい創造教育推進フォーラムの中で、特選作品については表彰をさせていただきます。入選・佳作につきましては、この 11 月に各学校へ賞状等をお送りさせていただく予定としております。

説明は以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） しばらくちょっと発表・報告のほうを続けたいと思います。

（７）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （７）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（８）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（８）番へまいります。「公民館関係報告事項」。

○市公民館副館長（小林和弘） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（９）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （９）番、「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは、文化会館の関係を 6 点チラシのデータでご案内いたします。

まず、人形劇の関係で 2 つございます。資料の 35 ページを御覧ください。

1 点目が「森のぼかぼかクリスマス」ということで、12 月 7 日の日曜日ですが、かざこし子どもの森公園で行うイベントの中で、人形劇の公演がございます。お時間がある方はぜひ御覧いただければと思います。

続きまして 2 点目、人形劇の定期公演の 12 月でございます。

12 月 14 日日曜日 10 時半から開演ということですが、こちらは飯田人形劇場で、千代の小学校三年生・四年生の皆さんの「千代っ子人形劇団」の皆さんと「ショウブズ」の皆さんが上演ということでありまして、特にこの小学校の上演に関しましては、文化会館での学校人形劇の支援事業ということで支援を行っておりまして、専門家の派遣ですとか様々な支援をする中で、今回上演をするということになっておりますので、お時間のある方はぜひ御覧いただければと思います。

続きまして、事業係から 4 点ございます。

まず、ウのところで、「にこにこステージ」ということで第 74 回になりますが、これは飯田文化会館が子育て支援事業として定期的に行っておりますが、小さなお子さんと子育て中のお父さんお母さんのためのコンサートです。12 月 3 日、こちらも飯田人形劇場で行われます。時間が 10 時からと 11 時 15 分からというふうに 2 部制になっておりますが、小さなお子さんが楽しんでもらえるプログラムということになっておりますので、ご承知おきいただければと思います。

続きまして、「クリスマスコンサート」、こちらは 12 月 7 日の日曜日ですが、会場は鼎文化センターで行われます。「コンサート・ア・ラ・カルト」の第 83 回目ということで、この「コンサート・ア・ラ・カルト」に関しましては、市民の皆さんに身近なところで音楽を感じてもらいたいということと、地元で活躍している音楽家、演奏家の皆さんに出演いただいているミニコンサートということでございます。

今回もハンドベルですとか、女性合唱団の皆さん、またはピアノ、フルートという地元で演奏活動をされている皆さんのコンサートということでございます。値段も 500 円、全席自由ということでありますので、お気軽にお越しいただければと思います。

続きまして、「おいでなんしょ寄席」のイベントになります。こちらは年を明けまして、1 月 16 日金曜日、文化会館のホールで行います。

今回が 46 回目ということになりますが、飯田市出身の橘 左近師匠に過去お世話になっておりまして、残念ながら左近師匠がお亡くなりになっておりますが、三回忌を追善することになっておりまして、今回は桂米朝一門会ということで、関係の皆さんにお越しいただくということで、裏面といいますか 2 枚目のところに今回来ていただく師匠の皆さんが紹介されております。桂 南光師匠、桂米團治師匠、桂 吉坊師匠ということと、「おいでなんしょ寄席」の歩みが書いてございます。実は明日からチケット発売ということで、毎回チケット販売にお並びいただくということだったんですが、今回からネットでも同時に販売するというので、お並びいただかなくてもご自宅でもスマホからでもチケットを予約いただけるような仕組みを取り入れております。

なお、翌日 1 月 17 日には、今回初めてでございますが、寄席文字をこの飯田で体験いただくという教室も開催予定ということでございますので、ご承知おきいただきたいと思います。

最後でございますが、こちらは 3 月 14 日、「スターダスト☆レビュー」のイベント、文化会館ホールで行います、全国ツアーのイベントということになります。

「スターダスト☆レビュー」に関しまして、全国的にも大変人気のグループということであります。今回、実行委員会形式で開催する予定ですが、前回、「グリムスパンキー」のときにも大勢参加いただき、実行委員になっていただきましたが、今回も 50 名を超える実行委員の皆さんに集まっていただいて盛り上げたいということで、これから宣伝活動とかにもご協力いただくということであります。

既にチケットは、大分地元先行、または今ネット予約ということで販売しておりますが、かなり販売が進んでいるという状況であります、それぞれ飯田文化会館以外での大手のチケットセンターで販売している関係上、まだ席はあるそうですので、お時間ある方はぜひ観賞いただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） もう少し続けたいと思います。

(10) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（10）番、「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） 先月ご報告申し上げました中央図書館開館 110 周年記念事業ですが、あゆみ展が 11 月 15 日～30 日まで、それからシンポジウムで「図書館の明日を語る会」を 29 日に開催を予定しておりますので、ぜひお出かけください。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（11）番、「美術博物館関係報告事項」。

槇村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（槇村洋介） 美術博物館から 1 件お願いいたします。

12 月の「びはくにゅーす」でございます。イベントのご案内ということでございます。

42 ページです。まず、プラネタリウムですが、冬の新番組が始まります。新番組になるのは、上映の 1 番目、10 時半から 11 時のところですが「こぐま座のディオ 星空だいぼうけん」、これが新しい番組ということになっております。この番組は、未就学のお子様、低学年のお子様向きの家族で楽しんでもいただける番組となっていますので、またご利用いただければと思います。

それから同じくプラネタリウムですが、星空観望会が 12 月 14 日に予定しております。ちょうどふたご座流星群の観測に適した時期になりますので、流星を眺めながら冬の星座を御覧いただければと思っております。

次に 43 ページになります。いくつか講座がございます。端折ってお話をしますが、文化講座、12 月 21 日に『下伊那史』を支えた人々」ということで、下伊那史の刊行が終了しまして、下伊那史の編纂委員長で、さらに飯田市歴史研究所の所長でございます伊坪先生にお話をいただく予定となっております。

それから、「第 25 回現代の創造展」のところでございますが、12 月 7 日には高校生の一日学芸員で美術が好きな高校生の皆さんに集まっていただいて、現代の創造展の中で気になる作品などについて発表し合うという会を持ちたいと思っております。御覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加）　続きまして（12）「歴史研究所関係報告事項」。

○歴史研究所副所長（牧内　功）　特にございません。

○教育長（熊谷邦千加）　以上、報告事項ちょっと立て続けにお願いをいたしました。生涯学習・スポーツ課関係から最後の歴史研究所まで、報告について何かご質問等がございましたらお出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですかね。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加）　はい、ありがとうございました。

それでは可能な範囲でご出席いただけるものがあれば、ぜひお願いしたいと思います。

(13) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加）　それでは（13）番、「今後の日程について」。

北澤総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月）　そうしましたら（13）今後の日程についてを御覧ください。

10月3日から始まりました学校訪問は、残り明日12日と金曜日14日の2日になります。この2日間とも学校では給食をいただく形となりますので、お目通し、確認をお願いします。また、出発等の時間は、以前にお配りをいたしました、資料のほうで確認をいただければと思います。通常のお時間よりも若干早い時間帯となっておりますのでよろしくお願いいたします。

12月1日、それから12月11日の第4回校長会・教頭会は、記載のとおりとなります。

また12月15日は、本会場で12月定例会を予定しております。同様に1月20日、本会場で1月定例会を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　日程について何かご質問等ございますか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加）　全体を通して何か発言しそびれたようなこと、聞き忘れたことがございましたらいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程の第10。

以上をもちまして、本日の定例会の日程は全て終了いたしました。

お疲れ様でした。

閉 会 午後4時00分